生徒が学習意欲に目覚めることが大切

学習のモチベーションを高める体制づくりに取り組む

インタビュー
進学指導主任　樋口 元　先生

■3D教育プログラム導入の経緯

最近の大学入試において、求められている生徒の資質は、AO入試や推薦入試がその割合を増やしているとおり、コミュニケーション能力を備えた生徒だと思います。

男子校は言葉によるコミュニケーションが比較的少ないと感じていた中、進学指導の立場の私がKA教育の菊地さんから「3D教育プログラム」の話を聞き、導入に至りました。

小論文の指導を3年生になって初めて生徒から「よろしくお願いします」と言われてもそれまでの積み重ねがない中では何ともしようがありません。そうするとやはりグループコミュニケーション学習のような場が必要だと感じました。

■京華中学高等学校の学習・進学指導体制についてお聞かせください。

京華中学高等学校の学習指導・進学指導では生徒が学習に対する意欲に目覚めることが最も大切なことと考えます。そのためのプログラムとして、適性検査、進学講演・説明会、担任面談などの段階を経て、自分の適性、能力を判断していきます。さらに社会人特別授業や大学の先生の出張講義、在校生卒業生懇談会などさまざま進学のための行事を開催しています。

本校では、大きく「特進コース」と「進学コース」に分かれ、それぞれ学習のモチベーションを高め、生徒の進路選択の多様化に応えられる体制を整えてますが、その一環として、KA教育の「3D教育プログラム」を導入し、エゴグラム診断・グループ体験学習を実施しています。

■3D教育プログラムの狙いや取り組みについて

KA教育の協力のもと、年2回（4月、9月）の「エゴグラム診断」を行い、加えてロングホームルームの時間を活用して年間10回程度のグループコミュニケーション体験学習に取り組んでいます。

エゴグラム診断では、生徒が自分の心の状態を客観的に分析し、体験学習を通じて長所を伸ばし短所を改善することを狙いとしています。

各学年ごとに年間を通じて目標やテーマを設定しています。例えば、高校1年生の場合、「自己の確立・自己理解・目標設定と自己主張」を目標とし、テーマは「長所を活かし、夢（目標）実現に突き進もう」という形です。また、3年生になると受験を視野に入れ、「小論文・ディベート・面接の実践」を目標に、「夢（進路）を勝ち取ろう」をテーマに小論文対策中心に進めています。

進学コースでは、2年次に年間27時間のキャリアアップゼミを今年度から実施し、小論文・ディベートの基礎をテーマに、個々の進路指導を受験に集中させていきます。また、3年生では小論文総合ゼミとして、小論文・ディベート・面接の実践といった形で、コミュニケーション能力の育成を行い、AO入試や推薦入試への対策を行っています。

■エゴグラム診断の効果について

これは各学年ごとによって違ってきますが、まず1年生の場合、4月入学の時点ではCP（責任感・向上心・まじめさ）がローエゴになった生徒（＝厳しさに欠け、約束や時間にルーズ）が学年全体の27・5％の割合でいたのが、13・7％に激減し、その分「責任感が身に付き、規則や時間を守り、努力する」生徒が増えてきました。また、FC（明るさ・積極性・創造性）のローエゴも12・5％から5.6％に減少し、自分の感情を素直に表現できる生徒が増えてきています。

2年生でもCPがハイエゴ、ローエゴともに改善されています。A（思考力・判断力・感情のコントロール）もローエゴの生徒が減り、衝動的、短絡的に行動する生徒が減ってきています。また、際立ったところとしてFCがハイエゴの生徒が48・3％から55・5％に増加し、創造力や発想力が豊かで明るく活発に自分を主張できる生徒が増えています。

このように各学年で特徴はありますが、1回目と2回目で診断結果に変化があり、各プログラムの効果を現していると思います。

■グループコミュニケーション学習の現状

グループコミュニケーションをしながら自分の主張もでき、同じことについて他の生徒はこんな風に違う考え方を持っているんだということを理解する生徒が増えてきています。また、グループコミュニケーションの題材の中にはそのまま小論文のテーマに使えるようなものもありますのでそういう方向も考えます。

KA教育の菊地さんには年に10回のプログラムを組んでいただいているのですが、学期に1回か2回という学年もありますのが実際のところです。ロングホームルームの50分でできる課題ばかりではないため、先生方に実際にやってもらうと「50分では終わらない」という声もあがっています。このグループコミュニケーションの課題を50分で終われるもの、もう少し時間のかかるものなどの分類なども菊地さんのほうで今後していただくという計画もあるようですので、楽しみにしています。

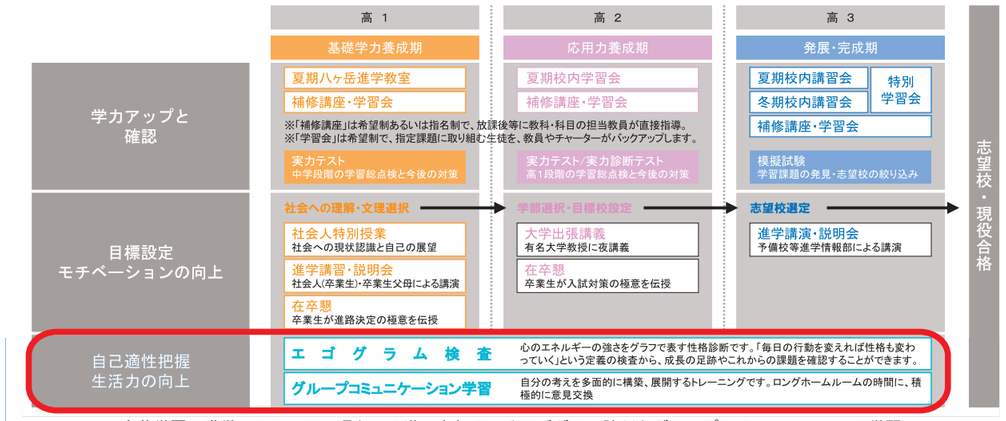
■プログラム運営を効果的に進めていくための環境づくりについて

以前は教員研修会を行っていましたが、教員がさまざま学校運営で忙しいといった状況でなかなか会議の場を持てていないのが実情です。

最近は、KA教育の菊地さんによる保護者対象の講演会を開催し、「親が変われば子どもは変わる」をテーマに学校も協力しながら家庭での取り組みを勧めています。その場には教員も来ますので学校と家との協力を促してもらう場になっています。

今後、進学面、生活指導上のプログラムの必要性を訴求していくことが大事だと思います。学年や教員だけでなく、学校全体としての戦略の柱として見ていけるかどうかがポイントではないでしょうか。

また、他の学校での成果を報告し合うKA教育3D（研究会）の場も上手に活用しながら包括的な環境づくりがポイントになってくると思います。



京華学園の進学システムの一環として導入されているエゴグラム診断とグループコミュニケーション学習

★『3D教育プログラム』でココが変わった！

- 進路について自分で考え自分で決める生徒が増えた
- 責任感を持ち、規則や時間を守る生徒が増えた
- 想像力や発想力豊かに明るく自己主張できるようになった